

令和7年度 美術科 授業改善推進プラン

大田区立大森東中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・安心安全に授業を受けられる環境に整えることができた。
- ・美術の活動の課題に対して生徒自ら自分らしい切り口の創作をすることができるようになった。
- ・生徒自身が作品制作で達成感をもてたことから、人の作品をも大切にすることができるようになった。

(2) 課題

- ・特性のある生徒や身体的障害のある生徒などそれぞれに合わせた指導に対して、周りの理解を得る。
- ・教科をこえた横断的な教材研究並びに生徒指導。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和7年度結果	令和6年度結果	令和5年度結果
第1学年		/	/
第2学年		(第1学年時)	/
第3学年		(第2学年時)	(第1学年時)

(2) 分析（観点別）

① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
習得する知識・技能が、小学校の時とは量も質も大きく変わったにもかかわらず、良く見聞きし理解し、習得することができていた。	美術が如何なるものか、社会との繋がりを見つめ歴史を辿り知ることで、生徒自身はなにがしかを感じ取り独自の視点をもつことができた。また、それを手作業の表現につなげることができた。	教科書だけでなく、多くの図書資料をICT機器を用いて活用できたため、生徒は自ら感じ取り、それを発言発表することができた。また、それが主体的な制作に繋がった。

② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
今まで学び得てきた知識技能を活かして作品制作に取	課題(題材)の内容を生徒各自の経験や思考に結び付け、	制作に伴う準備や片付け、また、取り掛かりから提出まで

り組むことができた。	それぞれの発想と構想で独自のテーマをもった表現にすることが難しい生徒がみられた。	の見通しを主体的にもった活用が難しい生徒がみられた。
------------	--	----------------------------

③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
質の高い図書資料と ICT 機器を活用できたおかげで、知識と技能を正確に学ぶことができた。また、さらに自ら調べ深めることもできた。	自己の心情や考え、イメージなどを課題(題材)に結び付けて、学び得た知識と技能をそれに調和させた作品に実体化することができていた。	限られた制作時間にもかかわらず、完成度の高い作品が数多くみられた。ICT 機器を活用した振り返りでは、多くの生徒が他生徒作品の良さを感じ取り、それを主体的に発表した。

3 授業改善のポイント (観点別)

(1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
学びの内容を生徒がいつでも振り返れるように ICT 機器を活用し明確化する。 他教科で得る知識や技能に繋がり深まるような課題(題材)を設定し、横断的な学びになるようにする。	生徒各自が多方面から課題(題材)にアプローチし、それぞれの個性を発揮しやすい作品制作になるよう、課題(題材)自体の自由度をより広げたものに設定していく。	生徒各自の得手不得手や環境の違いはあれど、主体的に取り組んだ作品は結果的に素晴らしいことを振り返りや ICT 機器を用いて実感させる。他者の作品や、異なる文化や歴史に敬意を払い、文化の継承と創造の重要性を実感させ美術を通して相互理解を深めさせる。

(2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
学びの内容を生徒がいつでも振り返れるように ICT 機器を活用し明確化する。 他教科で得る知識や技能に繋がり深まるような課題(題材)を設定し、横断的な学びになるようにする。	生徒各自が多方面から課題(題材)にアプローチし、それぞれの個性を発揮しやすい作品制作になるよう、課題(題材)自体の自由度をより広げたものに設定していく。	生徒各自の得手不得手や環境の違いはあれど、主体的に取り組んだ作品は結果的に素晴らしいことを振り返りや ICT 機器を用いて実感させる。他者の作品や、異なる文化や歴史に敬意を払い、文化の継承と創造の重要性を実感させ美術を通して相互理解を深めさせる。

(3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>学びの内容を生徒がいつでも振り返れるようにICT機器を活用し明確化する。</p> <p>他教科で得る知識や技能に繋がり深まるような課題(題材)を設定し、横断的な学びになるようにする。</p>	<p>生徒各自が多方面から課題(題材)にアプローチし、それぞれの個性を発揮しやすい作品制作になるよう、課題(題材)自体の自由度をより広げたものに設定していく。</p>	<p>生徒各自の得手不得手や環境の違いはあれど、主体的に取り組んだ作品は結果的に素晴らしいことを振り返りやICT機器を用いて実感させる。他者の作品や、異なる文化や歴史に敬意を払い、文化の継承と創造の重要性を実感させ美術を通して相互理解を深めさせる。</p>